

海外アカデミック・ディスカッション	
翻訳劇の研究方法及び評論	
李 洪伊(イ・ホンイ) 比較社会文化学専攻	
期間	2010 年 11 月 22 日～2010 年 12 月 2 日
場所	フランス
施設	パリ 7 大学・リヨン 3 大学、オデオン座、パリ市立劇場など

内容報告

1. 研究テーマと研究の目的

私はメロドラマ¹というジャンルとその受容に関する研究をしながら、特に小説の舞台化、戯曲の翻訳に注目してきた。本プログラムの目的は、研究の全体像に照らしつつ、日韓の現代演劇²の曖昧なアイデンティティを言語化する方法を探索である。

2. 本プログラムからの成果

2.1 国際的な視点で観る演劇

2.1.1 「学術の場」としての劇場

どこを見ても劇場があるパリでは、演劇が映画と同じく大衆にとっても近い存在だった。劇場は単純に演劇を上演する場所というだけではなく、市民や観光客が自由に利用する空間でもあった。ほとんどの劇場が国立だという環境の違いも衝撃的だった。

その中、一番興味を持ったのは「学術の場」として使われている劇場だった。多くの劇場がこのようなプログラムを提供していたが、特にオデオン座(Théâtre de l'odéon)ではジャン・ジュネ(Jean Genet)とジャン・ルイ・バロー(Jean-Louis Barrault)の誕生記念百周年セミナーが開催され、二人の演劇人をテーマにした、様々な内容のレクチャーや討論会が行われていた。10月から始まったこのイベントは12月まで続く予定で、その中には無料で参加できる討論会「ジャン・ジュネの政治、欺瞞の道徳」、「ジャン・ジュネ文学翻訳の検閲」が、11月24日、25日の一日中に行われた。25日の討論会は国際翻訳協会によって開催された行事で、翻訳をめぐる「劇場的な表現」、「過去の作品を現代化する作業」が述べられたことが印象的だった。

しかし劇場に足を運ぶ人はみんな白人だったと言っても過言ではない。西欧演劇の「大衆演劇」、「民衆演劇」という言葉を借用する際、その用語自体についての再検討の必要性を強く感じた。

2.1.2 『春琴』と『魔笛』の観劇

私がフランスで観劇した作品は、サイモン・マクバーニー演出の『春琴(Shun-kin)』とピーター・ブルッ

ク演出の『魔笛(Une Flûte Enchantée)』だった。二つの作品は「パリの秋祭り(Festival d'automne à Paris)」の参加作として、前者はパリ市立劇場(Théâtre de la ville)で、後者はピーター・ブルックが芸術監督を務めているブッフ・デュ・ノル(Bouffes du Nord)劇場で上演された。

マクバーニーの『春琴』はフランスでは初演だったので³、観客の反応や新演出などを楽しみにしていた。笈田ヨシのフランス語のナレーションから始まった『春琴』は、現代の日本の女性があるラジオ・ブースで小説を読む設定で、二人のナレーターによって語られた作品だった。マクバーニーは谷崎潤一郎のエッセイ『陰翳礼賛』と小説『春琴抄』を舞台化しながら、何よりも小説『春琴抄』のエキリチュールを再現しようとした印象を受けた。久保田万太郎・巖谷真一・川口松太郎によって戯曲化された脚本と比べてみてもその特徴が感じられる。

パンフレットには「まるで水の上で書こうとしたような⁴」作品だというマクバーニーの感想が書かれている。彼の演出の手法を見ると、新野守広氏が『シアター・アーツ』での評論で「グリーンウェイの映画『枕草子⁵』によく似た異国趣味の舞台⁶」と述べたことが想起される。マクバーニーは文楽や歌舞伎などの演出方法を使って「日本的な」舞台を作り上げた。それが日本人とヨーロッパ人の目に同じ舞台として映らないのは当然であろう。この作品がヨーロッパの観客を魅了したのは確かであるが、それとは異なる観点からもこの作品は述べられるべきではないかと思う。

一方、『魔笛』は家族オペラとしてよく知られている。この作品は元々庶民のために作られたオペラだったが、今回はさらにフランスの観客に近づいた気がした。オペラ俳優が、歌はそのままドイツ語で歌ったが、台詞の部分はフランス語で演じたからだ。楽器はピアノたった一台で、上演時間を1時間50分にした。ピーター・ブルックは、1年間俳優たちがこの作品だけに集中するようにした⁷そうだが、オペラ

の厳しいルールから脱皮しようとした演出家の様々な演劇的なアイデアがとても新鮮だった。

しかし、昔の演劇の形から今の実験的な演劇の形までを、一つの舞台に再構成できるのは西欧演劇だけなのか。『魔笛』のような古典/オペラの大衆化・自国語化は、形式の側面からの分析により他の作品との比較も出来ると思われる。

2.2 「日本演劇」の研究

アリアース・ムヌシュキンの『堤防の上の鼓手⁸⁾』やフレデリック・フィスバックの『ソウル市民⁹⁾』など、フランス演劇の新しい世代とアジア・日本の古典劇が会った事例は決して少なくはない。そして「日本的な」演劇、「日本の」演劇は日本の国内と国外で異なる意味を持っているかもしれない。

私が今回、日本学ではなく韓国学の授業に参加した理由は、韓国人として日本学を学ぶときに韓国に関する知識や理解がもっと求められるときがあるからである。ヨーロッパで韓国学者として著名なイ・ジンミョン先生に出会ったのはとても貴重な機会でもあり、大きな光栄でもあった。イ先生はフランス大百科事典の韓国史の執筆者であり、日韓関係の研究者としても知られている。先生の紹介で国会図書館に行き見たり、パリ 7 大学のアジア言語研究科について説明を聞いたりすることが出来た。授業は学部の授業だったが、韓国学科 1 年生の数が 150 名だったので驚いた。日本学も韓国学も、最近はマンガの影響で多くの学生が入学してくるが、その興味は深い研究まで続かないようだ。この問題は翻訳の問題にも繋がるもので、マンガ・小説の翻訳に偏っている。

このような環境を知り、私は受容する側としての日本演劇を研究しながら徹底的に現代演劇を西洋のものだと思っていたことがわかった。韓国学を深い研究までには発展できないフランスの大学生と同じだと感じたのである。帰国後、私は『春琴』の評論原稿の投稿と研究発表を準備しながら、改めてメロドラマの勉強を始めた。西欧の古典的な大衆演劇と日本の伝統劇との類似性を分析し、それぞれが現代演劇に与えた影響を調べる方向に論文を書き直している。本プログラムを通じて視野が広がったので、世界の演劇研究を注目しながら、その中での日韓演劇のことを研究していきたい。

注

1. メロドラマとは、メロディー(音楽)とドラマ(演劇)の合成語で、(1)典型的な登場人物と(2)善と悪が戦う単純なプロット、(3)華麗な舞台装置を特徴とした演劇ジャンルを示す。

す。18 世紀フランスの劇作家ピクセレックールが創始したと知られているが、その人気はヨーロッパ全体に広がった。19 世紀、20 世紀になって形が変わり、今は「悲しいラブ・ストーリー」という意味で使われている。

2. ここでは同時代の演劇という意味ではなく、歌舞伎などの古典劇ではない、西洋演劇の形式の演劇を示す。
3. マクバーニー演出の『春琴』は、彼の劇団コンプリシテと世田谷パブリック・シアター合作作品として二〇〇八年二月~三月に初演、二〇〇九年三月に再演、そして二〇一〇年 12 月にまた再演された。
4. “Comme essayer d’écrire sur l’eau” <Shun-kin>パンフレット、4.
5. ピーター・グリナーウェイ (Peter Greenaway) の映画『Pillow Book』は日本の古典『枕草子』をモチーフにした映画である。
6. 新野守広 (2008) 「ギリシア悲劇とニヒリズムについて—『アルゴス坂の白い家』、『時の物置』、『春琴』、『ブレイク—』、『シアター・アーツ』 34, 130.
7. “ne travailler qu’une seule oeuvre Durant toute une année” <Une Flûte Enchantée>パンフレット、4.
8. フランスの太陽劇団 (Théâtre du Soleil) の作品で、二〇〇一年九月、新国立劇場で上演された後、同年十月韓国ソウルの国立劇場で上演された。
9. 平田オリザ作の作品で、彼の演出による初演は一八九九年である。フィスバックの演出としては二〇〇五年—二月シアター・トラムで上演された後、二〇〇六年フランスで上演され『ル・モンド』の 1 面に取り上げるくらい注目を浴びた。

参考文献

- 新野守広 (2008) 「ギリシア悲劇とニヒリズムについて—『アルゴス坂の白い家』、『時の物置』、『春琴』、『ブレイク—』、『シアター・アーツ』 34, 126-131.
- 野田学 (2008) 「舞台暴力の政治学、もしくは、『血みどろ』に抗するには—『THE BEE』と『春琴』、『シアター・アーツ』 36, 52-60.
- Lyn Gardner. (2009) Theatre Shun-kin, *guardian.co.uk*, (<http://www.guardian.co.uk/stage/2009/feb/06/review-shun-kin-barbican>). (6/feb/2009)
- Armelle Heliot. (2010) Shun-kin, un conte envoûtant au Théâtre de la Ville, *LE FIGARO.fr* (<http://www.lefigaro.fr/theatre/2010/11/22/03003-20101122ARTFIG00422-shun-kin-un-conte-envoutant-au-theatre-de-la-ville.php>) (22/Nov/2010)
- Théâtre de la ville <Shun-kin> パンフレット
- Bouffes du Nord <Une Flûte Enchantée> パンフレット